

ソ連の南千島・歯舞諸島占領に関する試作年表(4月研究会後改訂) 2018年5月5日現在

根室振興局の『運命の九日間：1945年8月28日～9月5日』				
年	月	日	月	日
1931	8	23		
		24	8	26
	9	18	9	19
1932	3	1	10	1
1933	1	30		
	3	17		
	11	16		
1937	7	7		
1938			9	29
1939	5	15		
	8	23	8	28
	12	1		
1940	9	1	9	5
	11	23		27
	11	5		
1941	3	11		
	4	13		
	6	22		
	7	28		
	8	1		
	8	14		
	9	6		
	11	7		
	11	26		
	12	8		
1942	5			
	6	5		
	6	17		
		8		
1943	2	2	2	1
	5	11		
	10	19		
		11		
	28-12	1		
1944~1945				
1944	6	6	7	7
	9月	末		
		10		
		10		
		17		
		20		
	11	6		
	12	5		

	6	米國務省領土調査課が <b>ブレイクスリー極秘文書</b> (南千島は日本に保持されるべき)を大統領に提出 (Memorandum of the Division of Teritorial Studies; SECRET CAC-302, Dec 28, 1944) See, history@state.gov. (Blakeslee Memorandum <b>ブレイクスリー極秘文書</b> をスターリンは2月ヤルタ会談以前に入手)		
	14	スターリンがハリマン大使に、南樺太と全千島の「返還」、旅順や満鉄の租借など要求全容を露呈		
1945	1 初	クズネツォフソ連海軍人民委員が <b>Milepost艦船</b> の受領基地 <b>Dutch Harbor</b> の安全性に懸念を表明		
	9	米軍のビルソン上陸作戦 日米死傷者比5/1に		
	18	キング米海軍作戦部長が1945年4~12月の艦船引渡し・訓練基地= <b>Dutch Harbor</b> の妥当性を照会		
	29	フレッチャー北太平洋軍司令官がキングに <b>Cold Bay</b> (陸軍Fort Randall,海軍機予備施設所在地)を推奨		
	2 4	~12 ヤルタ会談。ヤルタ協定;戦後処理に関する4条項締結。「対日参戦」の第4項は秘密条項		
	8	キングが、 <b>Cold Bay</b> であれば、引渡しと訓練がともに可能かどうかを照会。クズネツォフも同意見		
	8	<b>Milepost</b> 作戦の内、艦船引渡し基地を <b>Dutch Harbor</b> から <b>より安全なCold Bay</b> に変更。米ソ合意		
	8	首脳会談前にローズベルトが <b>ブレイクスリー報告を無視</b> 、スターリンに <b>全千島引渡し容認</b> の書簡送付		
	8	首脳会談でスターリンがソ連の対日参戦目的と条件を述べ、ローズベルト了承。11日に3首脳調印		
	11	ヤルタ3首脳会談の密約署名。ソ連への樺太南部の返還と、千島列島の引渡し、を規定		
	15	キング海軍作戦部長が <b>Cold Bay</b> で <b>Project Hula(上陸部隊装備・訓練・渡し)</b> を開始		
	19	米軍の硫黄島上陸作戦 日米死傷者比1/1に		
	3 7	<b>Project Hula</b> を指揮する <b>米海軍第3294分遣隊長</b> に <b>元海軍作戦部長マックスウェル</b> が就任		
	10	東京大空襲		
	4 1	~6/23 沖縄本島上陸。6-23守備隊全滅。日本側死者18万8千人。米軍死傷者8万4千人余		
	4 5	ソ連が日ソ中立条約の不延長を通告	4 22	ソ連軍、ベルリン突入
	12	ローズベルト <b>大統領急死</b> 。 <b>トルーマン昇格</b>	25	ソ米英軍、エルベ河畔で握手(エルベの誓い)
	16	Project Hula第一陣ソ連海軍将校220名/水兵1895名がCold Bay基地兵舎と艦船で訓練を開始		
	5 5	ソ連が日ソ中立条約の不延長を通告		
	7	<b>Project Hula</b> 上陸用舟艇30隻向けの将校100名+水兵800名2班15日間回転の兵員訓練開始		
	7	ドイツ降伏◆if◇日本は戦争終結の絶好の機会逃す◇if◆降伏していたら、原爆も千島占領もなかった・・・		
	5 10	トルーマンがソ連向け武器貸与停止の大統領令(ポーランド問題でソ連の譲歩を狙う)。ソ連が即刻、抗議 (「対ソ宥和」のローズベルトから、「是々非々」のトルーマンへの転換は <b>Project Hula</b> の進行に影響せず!?)		
	6 26	~27 共産党政治局・政府・軍合同会議。対日参戦を正式決定。スターリン側近の秘密ではなくなる 満州・南樺太・千島列島の占拠を決める。 <b>北海道の上陸・占拠では側近の意見が分かれる</b>		
	7 15	~8/2 米ソ英ポツダム会議	7 16	米原爆実験成功
	7 26	ポツダム宣言「対日無条件降伏要求」。日本は宣言を無視(28日)		
	8 6	広島原爆投下		
	8 8	遅ればせながら、ソ連がポツダム宣言に参加。同日、ソ連が対日宣戦布告。9日戦闘状態に		
	8 9	ソ連の満州進攻開始	8 9	長崎原爆投下
	8 11	第56狙撃兵団が日ソ国境から南樺太に進攻	8 14	御前会議がポツダム宣言受諾決定
	8 15	極東軍司令部が <b>千島列島上陸準備・実施指令</b>	8 15	天皇の敗戦の詔勅放送
		トルーマンがスターリンに日本軍に対する一般命令書第一号を送る		
	8 16	スターリンが返電で、日本軍がソ連軍に降伏する地域に、全千島列島と北海道北半部の追加を要求 (ペンタゴン起草の対日占領計画 <b>JWPC385/1</b> では、ソ連を含む対日共同統治を提案)		
	18	トルーマンはスターリンへの回答で、全千島列島の引き渡しについては同意、北海道北半部は拒否		
		極東ソ連軍司令部の樺太南部侵攻作戦、北海道北半部上陸作戦、全千島上陸作戦		
		<b>南樺太と南千島(択捉・国後)、色丹・歯舞諸島</b> <b>(第1極東方面軍)</b>	<b>北千島および中部千島</b> <b>(第2極東方面軍)</b>	
1945	8 10	第十六軍に国境を越え樺太南部進攻を命令	8 10	太平洋側からアバチャ湾への通路に機雷敷設
	8 12	米海軍第3艦隊の軽巡洋艦と駆逐艦が、松輪島と幌筵島に激しい艦砲射撃		
		ソ連カムチャッカ参謀部が指令文書で「米海軍は千島南部諸島に部隊を上陸させる準備中」と指摘		
	15	ソ連軍司令部が増援部隊の到着を待たず北千島上陸作戦命		
	16	塘路・恵須取(樺太西海岸)上陸	18	占守島竹田浜上陸、日ソ双方犠牲大
	20	真岡( <b>Х о л м с к</b> ホルムスク)上陸		片岡海軍基地(占守島西岸)上陸
	21~23	北海道上陸部隊=第87狙撃軍団(3個師)をウジオストクから真岡へ輸送(上陸作戦は一時延期)		
	22	トルーマンが <b>SWNCC150/3</b> (日本政府を介した間接統治方式)を最終的に承認		
	23	スターリンが極東地域の <b>日本軍捕虜50万人</b> をシベリアに移送するよう命令(シベリア抑留問題)		
	23~25	大泊・本斗上陸・占拠	23	幌筵島上陸
	25	豊原占拠、樺太南部全体を掌握	24	温禰古丹島上陸

			真岡港と大泊港が、次の作戦展開である「北方四島」占領の兵站地・軍隊集結地となる	
			26	中部千島の松輪島上陸
			27	新知島上陸
運 命 の 九 日 間	8	28	太平洋艦隊軍事評議会が南千島上陸作戦を拡大し、援軍増強、9月2日までに作戦を完了すると決定 択捉島上陸。飛行艇カタリナ偵察飛行	
		31		上陸部隊が色丹島斜古丹湾に到着
	9	1	8	31 得撫島上陸
	2		国後島と色丹島に上陸(ソ連『第二次世界大戦史』第10巻の年表ではソ連の千島上陸作戦は9月1日終了) 東京湾米戦艦USS Missouri, BB-63(ミズーリはTruman大統領の出身州)艦上で日本降伏調印式 スターリンが対日戦勝演説。最高会議幹部会令(9月3日を対日戦勝記念日とする法令)発令	
	3		ソ連の南千島・歯舞諸島上陸作戦つづく ソ連が9月3日=対日勝利デー(祝日)祝う (2011年7月25日、ロシア連邦が9月2日を「第二次世界大戦終結の日」と決める)	
	4		歯舞諸島を占領する上陸作戦部隊が 9月3日、国後島古釜布湾に到着 (9月1日に大泊=南樺太を出港) ソ連国家防衛委員会(戦争指導の最高機関)の廃止に関するソ連邦最高会議令(法令)を発令	
	5		歯舞諸島の多楽島、志発島に上陸 歯舞諸島の水晶島、勇留島に上陸 Hula担当 第3294分遣隊長が上陸作戦終結を受け、貸与艦船の対ソ引渡し停止令を受領	
1946	2	11	米國務省、1年前のヤルタ密約=秘密極東条項を公表。日本側は密約を始めて知る	
1947	7	4	ソ連が南千島在住日本人1万7千人を強制退去させる。同年9月、翌年10月、翌々年7月にも	
1949	10	16	ソ連はHulaで貸与された米タコマ級フリゲート艦28隻中、沈没した1隻を除く27隻を米国に返還 (貸与された上陸用舟艇の一部を1955年に返却。その他の艦船は返却せず、後年、ソ連で処分された)	
1950	6	25	朝鮮戦争勃発。返還されたフリゲート艦が急ぎよ再整備され、朝鮮水域へ出動することに	
1951	9	8	サンフランシスコ片面平和条約締結。52年4月28日発効=日本独立。ソ・中・印は条約不参加	
1953	1	14	～12/23 米国が、ソ連返還のフリゲート艦27隻中、18隻を海上保安庁(海上自衛隊の前身)に貸与・引渡し	
	3	5	スターリン死去	
	7	27	朝鮮戦争休戦協定調印	
1956	10	19	日ソ国交回復。ソ連が平和条約締結後に、歯舞・色丹の「引き渡し」に合意	
1965～1978			タコマ級フリゲート艦18隻が、海上自衛隊から随時、除籍され、米国に返還された	
1992	5	13	『イブスチャ』紙がB・スラヴィンスキー論文「ソ連軍による北海道及び南千島上陸—神話と実際」を掲載 (日ロ両国外務省や日ロ関係史の研究者たちが、従来の「神話」の再検討を始める一契機に)	
			2018.05.05 佐々木作成 (工事中)	